



7/24

入館者300万人達成！

イヨボヤ会館



▶市長と家族と共に記念撮影



昭和62年に開館したイヨボヤ会館の有料入館者の累計が、300万人を突破しました。

300万人目の入館者は、神奈川県小田原市から家族と一緒に旅行に来ていた西野入なずなさん（小学校3年生）。

高橋市長から記念品のイヨボヤ会館謹製塩引き鮭（目録）とシルクフラワーの花束が贈呈されました。

なずなさんは「300万人目になれてうれしいです。鮭もいくらも大好きなので12月の鮭のプレゼント楽しみに待っています」と話していました。

7/29

熱き戦い「県消防ポンプ操法競技会」

胎内市総合体育館駐車場

▶標的に向かって放水する消防団員



消防団員が消火作業の速さや正確さなどの技術を競う新潟県消防大会ポンプ操法競技会が開催されました。村上市の代表として山北方面隊からポンプ車の部に第3分団第1部（大毎・大沢）、小型ポンプの部に第2分団第2部（中継）がそれぞれ出場。気温が39度にもなる猛暑の中、土気が高い操法を披露していました。

出場した団員は「長期間の訓練の成果を十分に発揮できて良かったです」と話していました。

7/22

親子で水中生物ゲットだぜ

三面川（種川）



▶ズボンがぬれてもお構いなし



イヨボヤの里開発公社が主催した「種川水中生物探検隊」には親子など55人が参加しました。これは、三面川の分流の種川で水中生物を採取・調査し、自然の営みを実感してもらおうと毎年行っているもので、今回で12回目です。

自然保護協会の富樫繁春自然観察指導員から水中生物の捕獲方法を教わった参加者は、草陰や石の下などに網を突っ込み足で獲物を追い込んで、カニや小魚、ヤゴなどを採取していました。

7/18

安全性が向上「新鵜泊トンネルが開通」

鵜泊



▶開通式でのテープカット



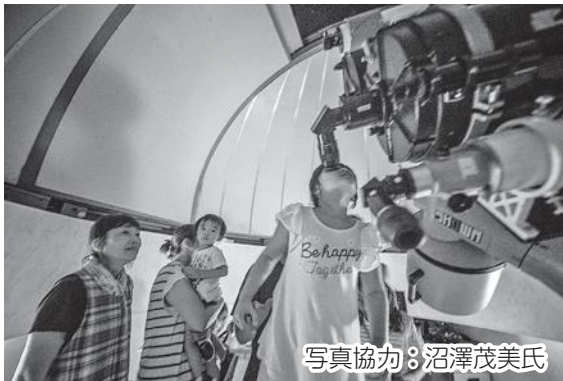
山北地区の鵜泊集落と寝屋集落間の一般国道345号「新鵜泊トンネル」（282メートル）が開通。これまでの道路は見通しが悪く、幅員も狭いため大型車のすれ違いが困難で、落石の危険性もあったため、新潟県が平成22年から約17億円をかけて整備を進めていたものです。

開通後は、片側1車線で歩道もあり、安全性と利便性が格段に向上しました。

7/31

火星大接近2018 南大平（ポーラスター神林）

▶初めて見る火星を観察中



写真協力：沼澤茂美氏

2003年以来15年ぶりに大接近する火星を観察するため、観望会が行われました。

当日は、雲ひとつない夜空の中、約180人が天文台を訪れ、夜空に光り輝く火星を観賞。

新潟市から来ていた小学2年生の佐藤萌惟さんは「初めて天体望遠鏡で星を見ました。星は白いと思っていたのですが、火星は赤く輝いていました」と話していました。

7/28

親子で飾り巻きずし体験 胎内アウレツ館

▶親子で協力して巻きずしを作成中



神林地区青少年育成市民会議主催の親子体験事業「飾り巻きずしに挑戦」が開催され、11組の親子、28人が参加。

巻き簾を使い、だんだんと大きくなる巻きずしに戸惑いながらも、親子で協力して完成させた巻きずしを、皆さんでおいしくいただきました。

7/28

まちづくりを熱く語り合う 総合文化会館

▶円卓型の段ボールに、アイデアを書き込む



都岐沙羅パートナーズセンターが、地域づくりの話題・悩み・妄想を気軽に語り合う「まちカフェ」を開催。

参加した37人は、「関係人口」（地域外から継続的に関わってくれる人）、「支え合い」、「若者の地域参加」のテーマ別に分かれ、日ごろの思いを語りました。

「若者の地域参加」では「若者に企画してもらい達成感を得てもらうのが大切だ」「学生に1日市長をやってもらおう」「大学に地域への参加を必修科目として入れる」などユニークなアイデアが出ていました。

8/3～
8/4

あでやかなる夏の彩り！ 「村上市花火大会in清流あらかわ」 坂町駅前通り／荒川河川敷

▶前夜祭の神輿渡御



動画あり

村上の夏の風物詩「村上市あらかわ大祭」は、今年から「村上市花火大会in清流あらかわ」と名称変更して開催されました。

初日の前夜祭では、坂町駅前通りで神輿渡御や民謡流しが行われ、大勢の観客を楽しませていました。

2日目の花火大会では、始めに村上市制施行10周年を祝う特大スターマインが打ち上げられると、次々と花火が打ち上げられ、清流荒川の夜空を色鮮やかに彩り、会場からは大きな拍手と歓声があがりました。